

## 農村保健のとらえ方

会長 豊田 文 一

20年前、私どもが、農村医学を一つの学問として系統化した頃は、過重労働と低所得に悩む「貧しい農民」ということを相言葉として、農民につながるすべての健康破綻を、これによって究明し、これがその解明のいとぐちにもなりえた。猫額の土地にへばりつき、それを守り生活を続ける農民の姿は、直接ここに足を入れ、彼等と語り、その保健問題と取り組んだ私どもは、昨今の変貌をみると当時を偲ぶよすがもない。しかし、私どもの周辺にはやはり広い農村が存在する。成程経済的観点にたてば、農村と都市とはもう隔差がない。だから今では「貧しい農民」という言葉は当てはまらない。とはいってもの今でも農村の人達は健康を保持してゆくには幾つもの欠陥のあるのは事実で、各種の調査でも明らかにされている。

今まで私どもは農村保健の問題にまともなぶつかり、それで色々の資料をえ、対策を講じた。しかし、表面上の環境は普遍化された今日、私どもが農村保健の問題を論ずるとき、農村の上をおおっている一つのベールをはらいのけなければ、ほやけた農村しか浮びでてこない。このベールをとり、じかに農村の実態をつかむこと

は、私どもの今後の研究課題と考える。

私どもの周辺の農村は豊かで、いかにも住みよい環境にあるものの如く思われている。しかしその裏面には、いまなおひそむ古い因襲が数多くひそみ、潜在的に健康をむしばみつつある。その具体的な事例として、昨年本研究会が行なった農村婦人の血液検査でも現われている。何が故に農村婦人に貧血が高率にでてくるか。今後の研究によって明らかにされると思われるが、現状をみつめるとき、やはり農村は健康破綻を起しやすい環境にあることがうなづかれる。

食糧生産が農民に委ねられている限り、農村は存在する。たとえ農業労働の形態が、どのように変わろうとも、農民はその土地で生活せねばならない。私はたびたび農村を訪ね、健康調査を行う度に、いまだ農民自身が如何に自身の健康意識が乏しいかを痛感している。

実際農村は表面的には都市化傾向にあることは否定できないが、農村自体を深くみつめるとき、私どもに課せられた問題点は一朝一夕には解消されないと思う。このことは健康な村作りのためにも努力すべき目標でもあり、また本研究会の使命でもある。